

企画・編集：中村優子 広島大学大学院医系科学研究科 放射線診断学研究室

### 序 説

画像診断医は幅広い領域の診断が求められるため、すべての領域の情報を自身で網羅することは難しい。よって、さまざまな領域の典型的な画像診断を概説する教科書や雑誌は画像診断医の日常診療に欠かせない。筆者自身も画像診断医になって20年以上が経過した今でも、頻繁に教科書や雑誌などを参照しながら読影を行っている。現在、画像診断の教科書や雑誌は数多く出版されているが、その多くが“キー画像”のみの提示に留まっている。しかしながら、実際の読影は連続画像を基に進められ、キー画像以外の画像も含めて最終的な診断が下される。よって、特に初学者にとって、キー画像のみを提示した教材では、実際の読影における理解が十分に得られない場合も多いのではないだろうか。

そこで今回、QRコードを利用して連続画像を提示しながら、特に初学者に向けて読影の作法を紹介することを目的とし、本特集を企画、それぞれの領域のエキスパートの先生方から、日ごろの読影作法・留意すべき点、コツなどにつき、代表的疾患の症例ベースでの解説を依頼させていただいた。

今回は初回シリーズとして腹骨盤部疾患診断、特に連続画像での診断が肝となる急性疾患にターゲットを絞った特集とした。肝・膵領域は山口大学医学部附属病院 放射線科

諸岡遼子先生らに、胆管・胆嚢領域は福岡大学医学部 放射線医学教室 高山幸久先生らに、消化管(腸閉塞や腸間膜虚血以外)は広島大学大学院医系科学研究科 放射線診断学研究室 前田章吾先生らに、腸閉塞はNHO呉医療センター 放射線診断科 豊田尚之先生に、腸間膜虚血は滋賀医科大学 放射線科 井上明星先生に、泌尿器科領域は島根大学医学部 放射線医学講座 吉田理佳先生らに、婦人科領域は鳥取大学医学部 統合内科医学講座 画像診断治療学分野 山路大輔先生らに、血管系は岩手医科大学 放射線医学講座

折居 誠先生に、外傷(臓器損傷 肝・膵以外)は広島大学大学院医系科学研究科 放射線診断学研究室 三谷英範先生に、それぞれの領域の急性疾患につき、連続画像を用いた読影の作法につき解説いただいた。

原稿を監修するなかで、各先生方の連続画像を活用した詳細な読影方法や注意点が非常にわかりやすく、実際の読影に即した内容であることに大変感銘を受けた。若手の先生にとっても、すぐに実践に役立つ情報が満載で、筆者自身も一画像診断医として、これらの知見を早速自身の読影に取り入れるつもりである。お忙しいなか執筆を引き受けてくださった先生方に深謝するとともに、編者として本特集が読者のみなさんの日々の腹骨盤部急性疾患の診断に役立つことを願っている。

中村優子